

行政イベント情報のディスカッション論点例

資料11

行政イベント情報については、個別の行政機関による公開のほか、日本観光振興協会や総務省の公共クラウドなどを介して情報が提供されている。しかし、各団体の公開方法がバラバラで、使う側の負担が大きい。また、公開側においても更新の負担やイベント毎に必要な項目が異なるなど課題がある。

1. 行政イベント情報のフォーマット共通化について

- ・各自治体が提供しているフォーマット、日本観光振興協会、公共クラウド、共通語彙基盤、こども霞ヶ関見学デー、IT総合戦略室の推奨データセットなどの既存フォーマットに加え、BODIKが提案するLODを使ったフォーマットなども勘案し、行政イベント情報のフォーマット共通化の進め方を検討する

2. 民間サービスにおける行政イベント情報の活用促進について

- ・民間サービスにおける行政イベント情報の活用例としては、マイ広報紙、ジョルテ（カレンダーアプリ）、アストモ、イベントバンクなどがある
- ・使い勝手を向上させるため、フォーマット共通化を進めると共に、提供方法の工夫（API等）、民間イベント情報やニーズが高い行政情報（給食の献立、学校イベント情報等）と組み合わせた提供を検討する必要がある

行政イベント情報のディスカッション論点例

3. 公開側の課題について

- ・行政イベント情報の公開負荷の軽減
- ・行政イベント情報を1箇所に登録すると、行政機関webページに公開されるほか、APIを介して様々な団体・企業で活用できる仕組み
- ・タブレットなどを用いて現地から情報の登録・更新ができる仕組み（静岡市「しずみちinfo」など）
- ・官民共同で運用するイベントカレンダー（掛川市「かけっこ」など）